

第64回学校代表者協議会 (22年11月4・5日 大阪女学院)

「希望と喜びに生きる―新たな転換期に立つキリスト教学校」 礼拝説教・講演・発題・分団討議

講演

「大阪女学院での学びと働き～神の器として～」

大阪女学院大学・短期大学
学 長

加藤 映子

138年に渡り、キリスト教に基づく人格形成を根幹に据えて女子教育に携わってきた大阪女学院のルーツ。それは、米国人ランバート・プレスビテリアン教会から派遣された宣教師ヘール兄弟が、1884年に創立したウエルミナ女学院にあります。「女性も教育を受けるべきである」という建学の精神のもとに誕生したこの女学校では、当時の日本人には理解が難しかった「個」の概念を、キリスト教を通して、女学生たちに伝えると共に、「自分で考え、行動し、その結果を引き受ける『責任ある自由』」という新たな理念を日本社会にもたらしました。大阪女学院の教育の根底に流れているのは、1893年に四代目校長に就任し、1899年に宗教教育を禁じる文部省訓令第12号が発令されたことに関与と成長したのです。



また、ヘール兄弟は、創立当初から女性を対象とした高等教育の構想を持っていました。それは、1968年に創立80周年事業の一環で誕生した短期大学として結実し、さらに、首都圏と近畿圏の一部区域での大学新設・増設を制限する工場等制限法の緩和に伴い、2004年に開学した大学や、2009年に設置された大学院も加わって、総合的な高等教育機関へと成長したのです。

振り返れば、私と大阪女学院との出会いは、中学3年生のときに大阪女学院高校に英語科があるのと知って入学したことになりました。当時は細かな教育理念には疎い私でしたが、望み通りの英語をつたうベルミナススピリッツでした。大学院修了後に帰国して本学院短期大学の教員となり、現在は学長として働く中でも、先人たちが大阪女学院で大切に培ってきたことを、学生や教職員の皆さんと共有していくという使命を担っています。

発題Ⅰ

「危機の時代のキリスト教平和教育の使命と課題―平和学からのアプローチ」

関東学院大学 豊川 慎

国際性ランキング(日本版)において、全国3位に入る国際的な学習環境の教育機関です。この豊かな環境をさらに発展させるべく、日本人のみならず、外国人の力に留学したときにも、厳しい学業の支えとなつたのは、大阪女学院で培ったウエルミナススピリッツに富み、インクルージョンを重んじる「神の器」の教育共同体として、大阪女学院での学びが学生たちの未来を拓くと祈りつつ今後も前進してまいります。

戦争、コロナ、環境破壊、人権とデモクラシーの危機、グローバル経済の弊害による格差増大など、グローバル規模での危機の時代にあつて、キリスト教学校における平和教育の使命と課題があらためて問われているのではないかと。

戦争に関する問題を扱う平和教育を「狭義の平和教育」と呼ぶならば、貧困、差別、経済格差、環境破壊などの「構造的暴力」に関わる問題を扱う「広義の平和教育」が「包括的平和教育」として論じられ、キリスト教者の信仰、価値観などを尊重し、隣人愛の精神を持って他者に接することを出来る。ことなどがキリスト教平和教育の目標となるだろう。

「神の同労者」としてこの危機の時代にあつて、時がよくても悪くても平和教育の種を共に撒き続けるべきこと

発題Ⅱ

「統一教会問題 今何を考え何をなすべきか」

東北学院大学 川島 堅二

はじめに

「統一教会」か「統一教会」という表記の問題を考へておく必要がある。団体の以前の正式名称が「世界基督教統一神霊協会」であったので、キリスト教界では「協会」を用いてきたが、広く世間では、この団体の英語表記(Unification Church)から「教会」が用いられている。学校関係の公文書で「協会」という名称を使う場合には、このあたりの事情を説明する必要がある。



「統一教会」は、(一)一九七〇年代から八〇年代当時のマスコミ報道における「親泣かせの原理運動」ということばが象徴するようにこの時期、統一協会問題は「家族問題」(二〇一〇九年)が設立され、関係者による情報交換網が整備され、一定の効果を上げた。

統一協会やエホバの証人について入信した親に於いての相談の増加により宗教二世、カルト二世の問題が浮上してくる。カルト問題は再び「家族問題」として考えられるようになるが、安倍元首相狙撃事件を機に、法の整備など「社会問題」としても取り組まれていく。キリスト教学校が、今考えるべきこと

分団討議報告
7グループ(1A・3B)

地域との連携を
グループ1A
(理事長
(学生生徒児童数2000人以上)
司会 飯 謙
(神戸女学院理事長)

開会礼拝説教
油を用意していますか
マタイによる福音書25章1～13節



宮岡 信行

(大阪女学院中学校・高等学校)
宗教主任

大阪女学院の制服のエンブレムは、「10人のおとめのたとえ」からデザインされています。これは天の国に憧れる人々に、イエスがその入り方を婚宴に参加しようとする10人のおとめにたとえるお話です。たとえば、花嫁の付添人であるおとめたちは婚宴開始を待ちくたびれて眠り込んでしまいます。コロナ感染防止の対応策、少子化社会の生徒募集、人手不足による多忙化などの難しい問題に快刀乱麻を断つ解決を待ちくたびれて、私たちが眠り込んでいような状態かもしれない。

眠り込んでいた10人のおとめは、婚宴開始の知らせで真夜中に目を覚まします。その時、ともし火を持って披露宴に参加できた5人と、準備が間に合わなかった5人に分かれてしま

ました。彼女たちを分けたのは「油」の用意でした。聖書における「油」とは、農作物の豊かな収穫として神の祝福を象徴しています。そして、すべての創造主なる神は、私たちそれぞれの分に応じて祝福をお与えくださいました。つまり、たとえ話にある「油」は、他人とは貸し借りできない、それぞれに固有の神の祝福を意味するのです。

キリスト教学校には各々固有の設置目的、また大切な建学の精神があります。これもそれぞれに与えられている他所から借りられない神の祝福です。問題山積みで闇の中を歩むような状況でも、この油を用意していれば学校のともし火は消えませんが、神から与えられた建学の精神を備えていたように、生徒・学生たちは自らのともし火にその油を足して、この暗い社会を照らすために出掛けていくでしょう。そして、おとめたちのように天の国である婚宴会場に、すべての人が幸せである未来に、この社会を導いてくれるに違いありません。

世界を照らそうとすると、もし火のための油、それぞれの学校に与えられている神の祝福、その建学の精神を途切れさせないように、いま私たちはどのような用意をしているのでしょうか。

戦争、コロナ、環境破壊、人権とデモクラシーの危機、グローバル経済の弊害による格差増大など、グローバル規模での危機の時代にあつて、キリスト教学校における平和教育の使命と課題があらためて問われているのではないかと。



戦後の平和教育の柱は日本国憲法と教育基本法であり、80年代までの平和教育は戦争の悲惨さの学習が主であり、80年代以降は日本の加害責任の学習も増えていった。今日の平和教育は、1960年代以降の「平和学」の発展に関連しており、

「統一教会」か「統一教会」という表記の問題を考へておく必要がある。団体の以前の正式名称が「世界基督教統一神霊協会」であったので、キリスト教界では「協会」を用いてきたが、広く世間では、この団体の英語表記(Unification Church)から「教会」が用いられている。学校関係の公文書で「協会」という名称を使う場合には、このあたりの事情を説明する必要がある。

「統一教会」は、(一)一九七〇年代から八〇年代当時のマスコミ報道における「親泣かせの原理運動」ということばが象徴するようにこの時期、統一協会問題は「家族問題」(二〇一〇九年)が設立され、関係者による情報交換網が整備され、一定の効果を上げた。

(3面につづく)

グループ3B
(校長・教頭・事務局長・事務長)
司会 坂田 雅雄
(横浜国立学園理事長)

(3面よりつづく)

ら、各学校(ほとんどが中高)の近況報告、課題などを報告し合い、それぞれの学校の抱える様々な状況を互いに理解を深めることができた。

特に各学校が抱える大きな課題は、ここ二年半のコロナ感染拡大の影響であった。学校行事や部活動の制限などで、学年を超える生徒の交流機会が減少し、行事の伝承が難しくなったこと、その中で自己肯定感の低くなる生徒が増加傾向にあることなどが指摘された。中には家庭での居場所のない生徒もおり、学校行事など安易に中止しないほしいとの生徒の要望

もあつたとの報告もあつた。生徒たちにとって登校すること、修学旅行などで宿泊することなどがとても大事であり、現在は多くの学校で、学園祭や体育祭は復活していることであつた。

また礼拝に関しては、讃美歌を歌わない期間が長くなり、讃美歌を歌えない生徒が出ていること、中には全校生で歌っていたハレルヤコーラスが歌えなくなったことなども報告された。そして現在は礼拝での讃美歌斉唱が復活している学校が多いと感じられた。授業についても登校対面授業とオンライン授業では、対面授業の方が、より理解が早い傾向がみられる

その報告もあつた。それ以外では、部活動の問題が出された。教職員の働き方改革に関連し、超過勤務の問題、学校のブラック企業視が広がっている。公立学校では部活指導の外部委託などが実施されつつあるが、実際に部活動の時間に多くを取られている現状もあり、教師のモチベーションの点なども指摘され、どう対応するか難しい課題であることが再認識された。

※第3グループBでは、二つの重要な発題「平和教育・使命と課題」「旧統一教会の問題」に関しては、残念ながら時間的に議論ができなかつた。

「学内教職員研修会 講師派遣制度」 のご利用を!

教育同盟では昨年10月から、2023年度「学内教職員研修会講師派遣制度」による、講師派遣の申請を受け付けている。(書面での案内は各法人に郵送済み。同盟HPにも詳細を掲載中。)

この制度は2019年度に始まり、希望する学校教職員研修会に、キリスト教学校で長い教育経験を持つ加盟校の先生方を講師として派遣するもの。講師の謝礼等経費は教育同盟が負担する。

今年度は8校がこの制度を利用。「これからの時代に求められるキリスト教学校になるために」何かがあつた時にはそこに立ち返りたい。「神に生かされていることに感謝し、その感謝を他者への奉仕に変えていく『人格教育』の重要性を再認識した。」といった声が寄せられた。(事務局)

派遣申請は
1月31日
(火)
締切です

西地区 新任教師研修会

キリスト教学校の価値観に出会い直す
「場を離れ、集い合い、
派遣される体験を通して」

2022年11月19・20日の2日間、関西セミナーハウス修学院きらら山荘で新任教員研修会が行われました。

新任教員として試行錯誤する日々の中、「一時的に学校を離れることで得られる気づきがある

は、自分自身が直面している悩みや問題の細部から離れた、ひとつ大きな枠組みで考えることができたからだと思います。言葉を変えながら「自分の学校だったらどうだろう?」「その行事にはどのような意義があるのだろうか?」と比較し、思い返し、反芻する自分に気づきました。そのように俯瞰的に捉えることで、自然と「我々の働きにはキリスト教が根幹にあるのだ」という原点を意識するようになりました。

それを顕著に感じたのは、キリスト教学校で働いて感じるポジティブな面とネガティブな面を、ポストイットに書き出して共有し合うグループセッションでした。礼拝・建学の精神・個を大切に

する生徒指導に関する価値観を見つめ直すことが多く寄せられ、キリスト教学校であるという揺るがない価値観に基づいて行われる対話の深みに触れ、感銘を受けました。

発題してくださった川鍋元広先生(広島女学院中学校・高等学校教諭)からは、「価値観が軽視される世の中で、キリスト教学校がぶれない軸を持つことが大切である」とのお話を伺いました。私自身、12年振りに母校に教員として戻ったものの、闇雲にもがくまに半年間を過ごしてしまっただけを反省したものでした。教員自身の軸となる価値観を見つめ直すこと



が研鑽と発展に繋がるということを心に留め、今後も学び続けたいと思えるお話でした。

コロナ禍において、宿泊を伴う今回のような研修は3年ぶりの開催だと伺いました。対面で集い合う機会を与えてくださったことに、改めて感謝申し上げます。研修の最後に、「派遣の祈り」をもつて送ってくださったことも大変ありがたかったです。この2日間に確かめ合った大切にすべき価値観や、志を同じくする先生方のお働きに思いを馳せつつ、与えられた場により良い教育にあたることを目指すよう、努力を重ねていきたいと思

公 募

※採用予定日はすべて4月1日です。

▽四国学院大学
▽社会学部
職種Ⅱ社会学(情報・メディア論他) 助教1名
応募締切Ⅱ1月31日
問合せⅡ0877-62-3363

▽青山学院中等部
職種Ⅱ音楽科非常勤講師1名
応募締切Ⅱ1月20日
問合せⅡ03-347-7463

▽明治学院中学校・東村山高等学校
職種Ⅱ非常勤講師①数学科2名②聖書科1名③理科2名④社会科2名
⑤音楽科1名
応募締切Ⅱ1月13日②③16日④⑤22日

▽横浜共立学園中学校・

キリスト教Q&A

—キリスト教の理解を深めるために—

十字架を肯定的に伝えた 最初の人物は誰ですか?

「キリスト教のシンボルは何ですか」という質問にどのように答えるでしょうか。キリスト教のシンボルは「十字架」、「魚」などいくつかあります。その中で「十字架」と答える方が多いのではないのでしょうか。礼拝堂の内部あるいは外側に十字架が掲げられているのをよく見かけます。また「イエスの受難」についての礼拝説教では、よく「私たちの罪を贖うために」、「私たちを生かすために」、「神の愛を示すために」など十字架の意味が語られます。私たちは十字架を肯定的に捉えています。

しかし、そもそも十字架刑は、ローマ帝国に反逆した人を処刑するために用いられた残忍な見せしめ刑でした。イエスはゴルゴタで十字架につけられたと聖書には記されています。エルサレム神殿へ通じる道から十字架につけられた人を見ることができたようです。異邦人は、十字架につけられたイエスは国家に反逆した愚か者と見なしたのです。またユダヤ人が大切にしている律法には「木に架けられた者は神に呪われたもの」(申命記21章23節)と規定されていますから、十字架という木に架けられたイエスを神から呪われた者と見なしていました。異邦人にしても、ユダヤ人にしても十



西間木 順

(東北学院榴ヶ岡高等学校) 宗教主任

*2023年のキリスト教Q&Aは東北学院宗教センターの先生方が担当されます

十字架を否定的に捉えていたのです。

十字架を否定的に捉え続けていたならば、キリスト教のシンボルにはならなかったでしょう。誰かが、「十字架」を肯定的に捉えた人物がいたはずです。その人物こそ使徒パウロです。

パウロはもともとキリスト教会を徹底的に滅ぼそうと迫害していた人物です。そのパウロが復活されたイエス・キリストとの出会いの経験によって回心し、異邦人伝道を行ったのです。パウロの「目の前にイエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきりと示された」(ガラテヤ3章1節)のです。パウロは回心以前、ユダヤ人同様に「十字架」を否定的に捉えていましたが、回心後は十字架を肯定的に捉え直したのです。異邦人にとって「愚か」であり、ユダヤ人にとって「呪い」であった十字架にこそ、「神の賢さ」、「神の祝福」が示されている、と宣べ伝えたのです。「わたしたちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えています」(1コリント1章23節)とパウロは言っています。パウロの宣教の中心は「十字架の言葉」です。パウロこそ、十字架を肯定的に捉え、宣教の中心に置いた最初の人物だったと言えます。

事務局だより

アドベントに、多い日には10通のクリスマスカードが届きました。御子ご降誕の喜びを分かち合うメッセージに、返信を差し上げず失礼していただきます。事務局は心から感謝して全て掲示しました(写真)。

衝撃的な2022年が過ぎました。不安と混乱は新年に持ち越します。しかし、この様な時代にこそ教育の役割の大きいことを信じ、地上の世界が少しでも良い方向に向かう様に、加盟校のお働きに力を合わせたいと思います。事務局長

